

今年の夏はどう過ごすべきか

With「コロナ」の時代を生きる

今年は今まで想像もしていなかった年となりました。感染予防対策とともに「新しい生活様式」が始まり、あわただしかった1学期ももう間もなく終わりを迎えます。振り返ってみれば、長期に渡る臨時休業、保護者のいない入学式、分散登校・時差短縮授業となり、新入生オリエンテーションや中間試験は中止、関東大会、インターハイはもとより球技大会、山高祭も中止せざるを得なくなりました。また、10月に予定していた修学旅行も1月に延期せざるを得ない状況でした。

この、異様な状況を、生徒の皆さんはよく乗り切り、山北高校の生徒としての誇りを持って行動してくれました。生徒の皆さん、保護者の皆様、そしてそれを支えてくれた地域の皆さんや関係団体の皆さん、本当にありがとうございました。まだまだ感染は収まりきれず、第2波、第3波の心配はありますが、まずはここまでのお礼を申し上げます。そして、今まで経験したことの無い状況下で、落ち着いて生徒の指導にあたってきた本校職員を誇りに思います。

さて、授業ができなかったことで、学習に遅れがあるのではないかと心配する声があります。通常の場合と比較した場合、遅れている部分も確かにあるでしょう。しかし、この状況下で生徒の皆さんは出された課題をこなし、「自学自習」の習慣を確実に身に付けてきたと思います。また、教職員もICT機器を

着実に努力 凡事徹底 自学自習

活用して、今までとは違った指導・評価の方法を進めてまいりました。そのような取組みにより休業期間中の学習は、確実に生徒の皆さんの力となっていることと信じます。

オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン氏が2013年に発表した「雇用の未来」という論文には「10年後、今ある職種の半分が消えてなくなる」とあり、世界中で話題になりました。それからもう7年です。あと3年でその10年後の未来に到達します。

今回の新型コロナウイルス（Covid19）の感染拡大により、想像もしていなかった未来（テレワークを基本とした勤務形態など）を垣間見ることができたのかも知れません。学校だけ見ても、授業の形態や部活動のあり方が大きく変わるかも知れません。通勤に不便という理由で人口の減ってしまっている地域は、リモートワークの普及で人口増加に転じるかも知れません。

生徒の皆さんは、私には想像もできない未来を生きていかなくてもなりません。今年の夏季休業は大変短いですが、沢山のことを様々な角度から考えて欲しいと思っています。

間もなく終業式です。夏休みも体調管理を心がけ、元気に2学期を迎えられるようにしてください。

新型コロナウイルスについては、下のアドレスを参考にしてください。
※厚生労働省「新型コロナウイルスに関するQ&A」令和2年7月22日時点版
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

着実に努力 **凡事徹底** **自学自習**